

## 5. おわりに

CM方式による分離発注工事の施工体制を、特に、総合工事業者への一括発注方式と比較した場合、「CMRを核としたチームワークによる施工体制」ということができる。

一括発注方式の施工体制は、発注者と元請業者との一つの契約関係を基礎とし、元請業者の指揮命令系統(施工管理)の下に、多数の下請業者が施工に当たる体制である。

これに対し、CM方式による分離発注工事においては、パッケージングの検討段階での発注者とCMRの協議、契約段階における発注者・CMR・各施工者という複数の契約関係者の存在、施工段階における原則対等な関係での工事運営等、発注前の段階から竣工後の段階までのプロジェクト全体を通じ、CMRのマネジメントに依拠した各工事関係者の主体的な協力関係の上に運営されることが必要である。したがって、各工事関係者の役割分担や責任関係が明確であることに加えて、発注者や各施工者等が責任感と主体性を持ってプロジェクトの完成を目指し協力する姿勢が必要である。その際、プロジェクト全体を通して中心的役割を担うCMRの能力は特に重要であり、元請としての施工経験が不足している専門工事業者の分離発注に対応したマネジメント能力の向上とともに、設計や施工管理の知識と経験を十分に備えた能力あるCMRの育成という観点も十分認識すべきである。

また、本報告書は、CM方式による分離発注を採用する場合にそのメリットを発揮するため、CMRをはじめ各工事関係者が考慮すべき基本的な視点を中心に、現時点で収集できる事例や資料に基づき取りまとめたもので、今後、CM方式の活用状況に対応して、CM方式による建築工事を一層円滑に進めるためのきめ細かな検討を深めていくことが、今後の課題である(参考：CM方式による分離発注を採用する場合の施工体制に係る今後の課題、取組方策)。

いずれにしても、CM方式は様々なメリットが期待される、多様な建設生産システムの一つであり、CM方式に対する理解が一層深められ、活用される場面が増えていくことが期待される。

CM方式による分離発注を採用する場合の施工体制に係る  
今後の課題、取組方策

《CMRの団体》

- ・ 設計や施工管理の知識と経験、さらにマネジメント能力を十分に備えたCMRを育成する。

《設 計 者》

- ・ CMRが設計段階において果たす役割に十分留意し、発注段階の設計図書を、各施工者が自らの責任範囲を明確に認識し的確な見積りを行うことができるよう完成度を高め、分離発注に対応したものとしていく。

《施 工 者》

- ・ 研修や実務経験等を通じて施工管理能力、調整能力、安全管理能力の向上に努め、コーディネート力を持った人材の確保・育成を進める。
- ・ 見積能力の向上に努める。
- ・ 法令に規定された技術者を配置できる組織体制、プロジェクト遂行時に生じた諸課題に迅速的確に対応できる組織体制を整備する。中でも、安全衛生管理に関する組織的な能力向上に努める。
- ・ 元請としての責任を果たす上での基本となる法的知識を習得する。
- ・ 施工品質の確保に努めるとともに、瑕疵担保責任を確実に果たせるよう、経営体質強化、制度的担保等を検討する。
- ・ 自らの企業実態に応じ、既存の専門領域での能力向上に努めるのか、企業連携により専門領域拡大を目指すのかの戦略判断に基づいた取組みを進める。

《業界団体》

- ・ 各種研修会の実施等を通じ専門工事業者を支援するとともに、必要に応じ業種横断的な取組みを進める。
- ・ 専門工事業者の施工力・経営力の強化、施工体制の適正化、人材の確保・

育成等について積極的に取り組む。とりわけ、基幹技能者制度の活用に取り組む。

《行政(国)》

- ・ 技術と経営に優れた専門工事業者の育成に向けた業界団体の取組みを適切に支援する。